

機能概要

PCカード伸縮データビューアは、弊社の伸縮データ集録装置から回収してきた伸縮データを Windows が動作するパソコン上でテキストファイルに出力する為のソフトウェアです。

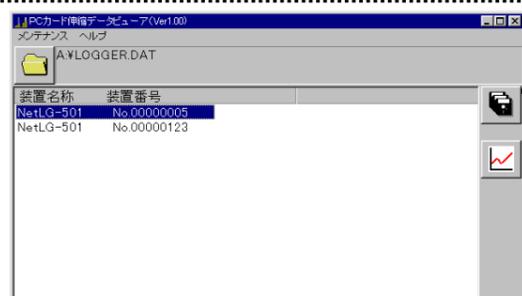
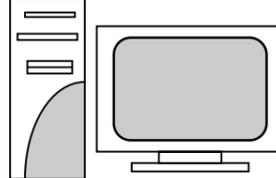
伸縮データ集録装置



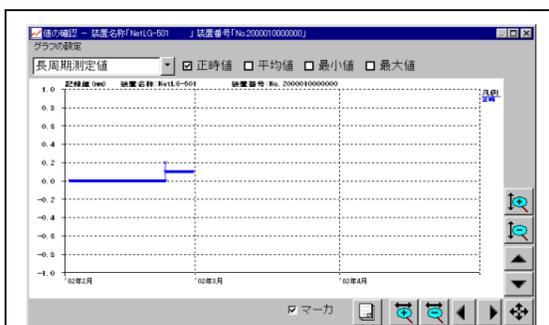
集録装置に記録されているデータを、PCカードに回収します。



パソコンの PC カードスロットに挿入してデータを読み込みます。



集録装置から回収したデータは PC カードデータファイル内に集録装置毎に記録されています。PC カード伸縮データビューアでは、集録装置毎に処理を行います。



記録状況はグラフ表示でき容易に確認できます。

データ処理を行うソフトに対応した形式で出力できます。



CSV形式のテキストファイル出力
出力したファイルは表計算ソフトで処理できます。



GGRAPH形式のテキストファイル出力
出力したファイルは GGRAPH で処理できます。



DataSaver形式のテキストファイル出力
出力したファイルは DataSaver で処理できます。

対応集録装置

PC カード伸縮データビューアでは以下の集録装置で記録したデータを処理できます。
ONET 伸縮データ集録装置 (NetLG-501 型)
(NetLG-501 からデータを回収するには ONET ネットワークコントローラが必要です。)

DataSaver は、国土防災技術株式会社製のソフトウェアです。
GGRAPH は、五大開発株式会社製のソフトウェアです。
表計算ソフト、代表的なものとして Microsoft Excel があります。

PC カード伸縮データビューアの動作環境

本体

Windows95, 98, ME, NT4.0, 2000, XP が正常に動作するもの。
(Windows95, NT4.0 でご使用になる場合は、Microsoft Internet Explorer4.0 以降をセットアップしている必要があります。)

CPU

Pentium200MHz 以上の CPU を搭載したもの。(Pentium200MHz 以前の CPU を搭載したものでも動作しますが、動作が極端に遅くなる場合があります。)

メモリ

Windows95, 98, ME の場合は、32M バイト以上。WindowsNT4.0, 2000 の場合は、64M バイト以上。WindowsXP の場合は、128M バイト以上。

ハードディスク

30M バイト以上の空き容量。

PC カード

ご使用の Windows が PC カードを外部記録装置として正しく認識する様に Windows の設定を行ってください。

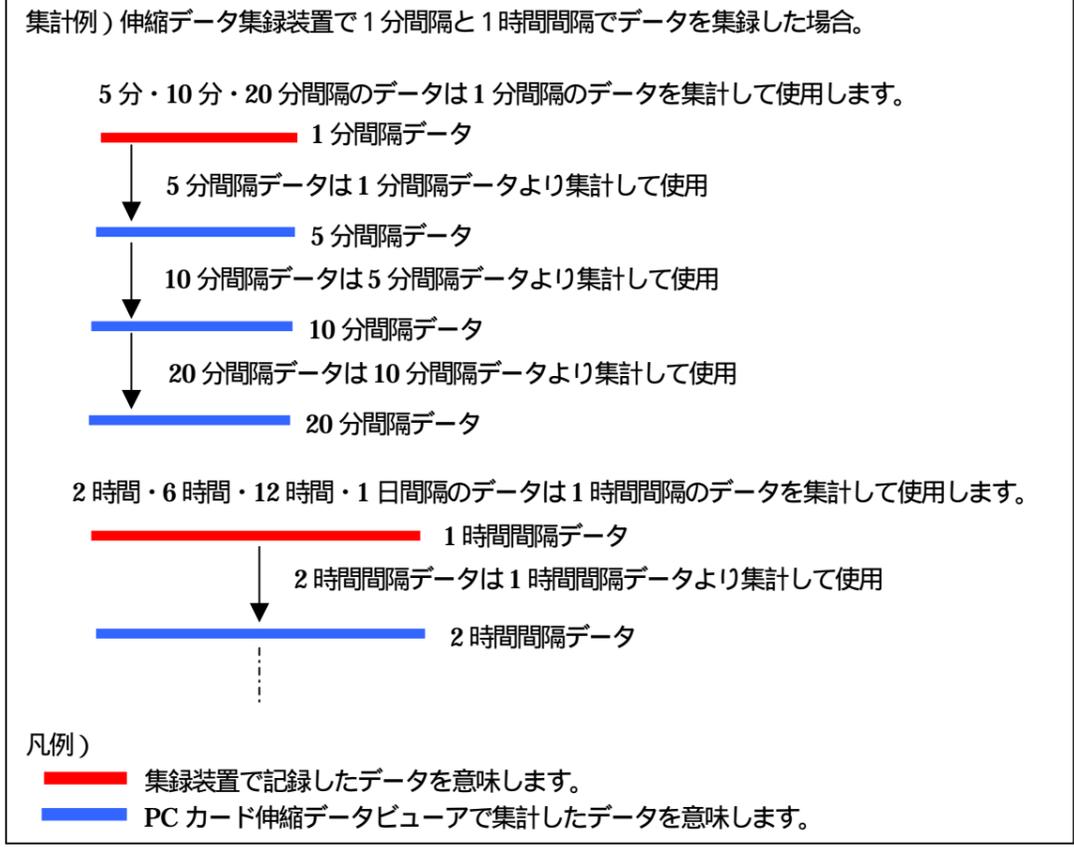
伸縮データ集録装置 (NetLG-501) での記録値

伸縮データ集録装置 (NetLG-501) では1秒毎にサンプリングを行っています。そのデータを1分間隔と、(5分・10分・20分・1時間・2時間・6時間・12時間・1日で指定可能) 間隔で集計して記録します。
 短周期測定値・・・1分間隔のデータは、1分間隔で正時値と、平均値・最小値・最大値を集計して記録しています。
 長周期測定値・・・1時間間隔のデータは、1時間間隔で正時値と、平均値・最小値・最大値を集計して記録しています。(他の間隔指定時も同様です。)

正時値 (1時間間隔のデータ) 正時値は、毎0分0秒の1回のサンプリング値です。 00:00:00 01:00:00 02:00:00	平均値・最小値・最大値集計値 (1時間間隔のデータ) 集計値は、0分0秒～59分59秒の3600個のサンプリング値を基に集計した値です。 00:00:00～00:59:59の集計値 01:00:00～01:59:59の集計値 { 平均値・・・00:00:00～00:59:59のサンプリング値の平均値です。 最小値・・・00:00:00～00:59:59のサンプリング値の一番小さな値です。 最大値・・・00:00:00～00:59:59のサンプリング値の一番大きな値です。	1分間隔のデータはデータ量が多い為記録できる期間が短くなっています。 (5分・10分・20分・1時間・2時間・6時間・12時間・1日で指定可能) 間隔のデータ 1分間隔のデータ
---	---	--

ビューアでの集計

PCカード伸縮データビューアでは、「短周期測定値」「長周期測定値」の値を基に、「5分」「10分」「20分」「1時間」「2時間」「6時間」「12時間」「1日」間隔の値を集計して使用します。



伸縮データ集録装置で「平均値」「最小値」「最大値」の記録

正時値のみ記録した場合は、記録間隔の途中で警報が発生 復帰した場合の値が記録できません。伸縮データ集録装置で平均値・最大値・最小値を記録し、後で警報発生原因を解析できる様にしています。
 1時間間隔で記録している場合は、1時間の平均値・最大値・最小値を集計して記録しています。平均値・最大値・最小値を使用しての解析では、その1時間内に警報が発生したことは解りますが、何分に警報が発生したのかは解りません。
 伸縮データ集録装置では1分間隔の測定値も記録しています。地すべり発生時等、より細かい間隔のデータが必要な場合は、1分間隔の測定値をご使用ください。1分間隔の測定値は記録できる日数が5日間と短い為、新しいデータで上書きされる前に回収してください。

テキストファイル出力仕様

PCカード伸縮データビューアでは以下の値を出力できます。
 「長周期測定値」「短周期測定値」「1日間隔集計値」「12時間間隔集計値」「6時間間隔集計値」「2時間間隔集計値」「1時間間隔集計値」「20分間隔集計値」「10分間隔集計値」「5分間隔集計値」「1分間隔集計値」

CSV形式の出力値	説明
正時値, 平均値, 最小値, 最大値	「正時値, 平均値, 最小値, 最大値」の順番で値を出力します。
正時値	「正時値」を出力します。
正時値 - 初期値	「正時値 - 初期値」を出力します。「初期値」は手動で入力します。
正時値前回差 (今回値 - 前回値)	「正時値」を用いて単位時間あたりの移動量を出力します。 測定間隔が、1日間隔の場合は、過去1日前から現在までの移動量です。 測定間隔が、1時間間隔の場合は、過去1時間前から現在までの移動量です。
平均値	「平均値」を出力します。
平均値 - 初期値	「平均値 - 初期値」を出力します。「初期値」は手動で入力します。
平均値前回差 (今回値 - 前回値)	「平均値」を用いて単位時間あたりの変化量を出力します。 9日の平均値前回差は、9日の平均値 - 8日の平均値です。 9時の平均値前回差は、9時の平均値 - 8時の平均値です。

GGRAPH形式の出力値	説明
正時値	「正時値」を出力します。
正時値 - 初期値	「正時値 - 初期値」を出力します。「初期値」は手動で入力します。
正時値前回差 (今回値 - 前回値)	「正時値」を用いて単位時間あたりの移動量を出力します。 測定間隔が、1日間隔の場合は、過去1日前から現在までの移動量です。 測定間隔が、1時間間隔の場合は、過去1時間前から現在までの移動量です。
平均値	「平均値」を出力します。
平均値 - 初期値	「平均値 - 初期値」を出力します。「初期値」は手動で入力します。
平均値前回差 (今回値 - 前回値)	「平均値」を用いて単位時間あたりの変化量を出力します。 9日の平均値前回差は、9日の平均値 - 8日の平均値です。 9時の平均値前回差は、9時の平均値 - 8時の平均値です。

弊社の伸縮データ集録装置では移動量を以下の様に定義し、警報判定に使用しています。
 ・日移動量・・・過去1日前から現在までの移動量。
 ・時間移動量・・・過去1時間前から現在までの移動量。

Data Saver形式の出力値	説明
変化値	「正時値」を用いて単位時間あたりの変化量を出力します。 測定間隔が、1日間隔の場合は、当日0時～翌日0時までの変化値です。 測定間隔が、1時間間隔の場合は、過去1時間前から現在までの変化値です。
累積値	「正時値」をそのまま出力します。